

## 医療現場で働く介護福祉士が果たす役割の明確化 ～医療現場に就労する介護福祉士のインタビュー調査～

中 村 京 子

昨今、介護福祉士の活躍の場は多岐にわたる。医療現場もその一つである。しかし現在では医療現場で働く介護福祉士のための教本は見当たらない。本研究は医療現場で働く介護福祉士のための介護過程のアセスメントシートマニュアルを作成するための基礎となる現状調査である。

医療現場で働く介護福祉士に直接面接し聞き取り調査を行い、現場で培った独自性などを集約し方向性を示唆するものとする。

本研究は回復期病棟・慢性期病棟に勤務する6名の介護福祉士のインタビュー内容から特徴を導き出し、病院介護の必要性を確信し、健康段階別の介護の目標を設定した。

Key words：病院介護 介護過程 アセスメントシートマニュアル

## はじめに

昨今、医療現場における介護福祉士を求める声が高まりつつある。厚生労働省病院報告「職種別にみた病院の従事者」では年々上昇し、2014年は2002年の2.9倍であった。しかし現在の参考文献やテキストでは、主に福祉現場での介護過程展開方法を書かれており、医療現場の急性期から回復期、または慢性期から終末期に移行する過程のためのアセスメント項目を教授するものはまだみることがなく、病院で就労している介護福祉士の個々の意識と努力で独自に行われている。統一した介護を行うには基本となるマニュアルが必要となる。本研究は病院介護マニュアル作りを目的に、医療現場で就労する介護福祉士に直接面接し聞き取り調査を行い、現場で培った独自性などを集約し「介護目標」を決定する方向性を示唆するものとする。

### 1. 医療現場における介護福祉士の現状

介護福祉士は、制定当初は生活の場である施設や在宅において、生活全体を支援する専門職として役割が想定されていた。それゆえ、介護福祉士養成施設の実習先は医療現場はもちろんのこと介護老人保健施設も対象としてあげられなかった。介護保険制度の創設と共に介護老人保健施設・介護療養型医療施設・在宅介護・小規模多機能など介護福祉士が活躍する場が広がり、求められる役割・機能も大きく変わってきている。特に昨今では医療現場における介護福祉士を求める声が高まりつつあり、厚生労働省病院報告「職種別にみた病院の従事者」からも2002年14,690人…2005年20,600人…2008年27,481人…2010年33,143人と年々上昇し2014年42,987人となり2002年と比較すると2.9倍と上昇している。

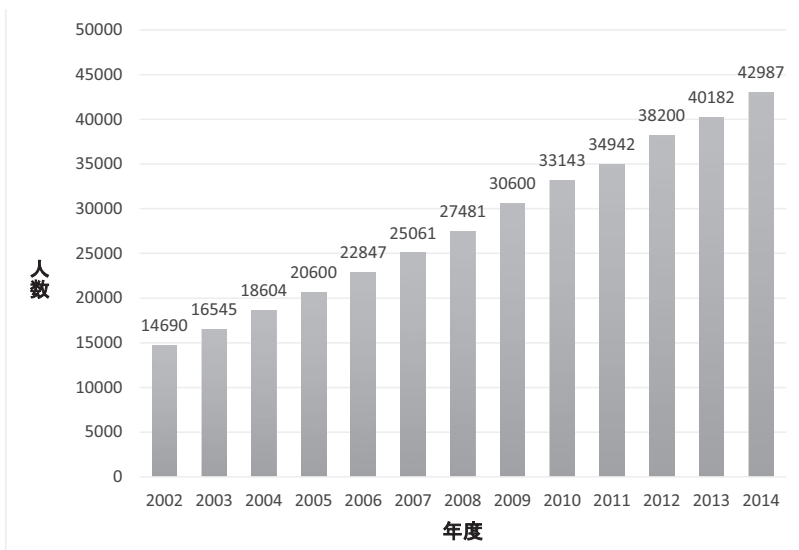


図1 「職業別に見た病院の従事者数」

介護福祉士養成大学連携協議会でも医療現場での介護過程教育の必要性の報告がなされた。4年生大学は介護福祉士のルートが多様化し2年制・高校の差別化のためにも新カリキュラムとして「医療介護過程論」など専門の科目を取り入れている。

しかし、現在のテキストには、主に福祉現場での介護過程展開方法を書かれており、医療現場で働く介護福祉士のためのテキストはまだ見ることがない。

## 2. 医療現場における介護福祉士の専門性

分担者の馬場の先行研究から「医療現場における介護福祉士の役割について～他職種と連携を行う上での一考察～」の結果から「介護福祉士が病院に必要」と答えた理由が、介護福祉士は「患者・家族に入院生活を安心

してもらえるため」に対し、多職種の看護師は「治療以外の側面に、医療サービスの向上につながるため」リハビリテーションは「生活支援を任せることができる」が最も多く、明らかに多職種が介護福祉士に求めているものの意識が違った。それは医療現場の多職種から見た介護福祉士は専門性が「わかりづらい」と言われていることを立証している。

### 3. 先行文献とインタビューの妥当性

薄井<sup>1)</sup>は、「ナイチンゲールの看護観は、彼女自身のさまざまな看護実践を通して、それら実践に含まれる共通性を抽象してくることによって打ち立てられた一般論である。」と述べている。故に健康段階別介護の目的も多数の介護者からの声の共通性を抽象してくることによって作られていくものではないかと考える。また、専門性について黒澤<sup>2)</sup>は「人間科学が介護職の専門性である。…人間科学におけるエビデンス（根拠）は多義的である。AはBであるが、CやDにもなりうるのである。…自然科学は自然の事物を対象とし、分析、計量、計算をして実証するが、人間科学は分析や計量、計算という作業がなじまない…永遠に不可能であり、学問の奥行は深い」と述べている。即ち介護の専門性は、一義的ではなく多義的であり、永遠に学びながら決定していくプロセスであるなら、事例を集め共通性を抽象していく必要がある。今回は健康段階の回復期と慢性期の各3人の事例ではあったが、それぞれに共通性と思われるものが浮き彫りにされた。

### 4. 健康段階別に応じた「介護過程アセスメントシートマニュアル」の必要性

医療現場における介護福祉士の現状と意識を把握し介護福祉士が看護・リハビリテーション職と共に自信と誇りをもって働くためには、介護福祉士が果たす独自の役割を明確化する必要がある。そのためには、患者の状態に応じたアセスメントを行い、今何が必要か、介護福祉の専門性とし

てどのような援助が適切かを知る必要がある。

参考文献も教本もないまま医療現場は介護福祉士の独自で役割を模索し、病院での位置付けを確立していかなければならない。医療現場における介護福祉士のマニュアルを作ることが急務であるとの意見から今回の共同研究を早急に行う運びとなり、医療現場の急性期から回復期、または慢性期から終末期に移行する過程のためのアセスメント項目を行い、図2のようなイメージ図を考えた。

## 5. 健康段階別に応じた「介護過程アセスメントシートマニュアル」のイメージ図（図2）

※イメージ図の説明

□ 内の矢印（↔）印は患者の状態の変化を表す。

ケアが大きい状態のときには治療が優先となり、除々に回復とともにケアが大きい状態となる。

それに付随して、家族の心配が変化していく。身体的には全介助から自立に向かう。また精神面も命の不安から退院後の不安に変化する。

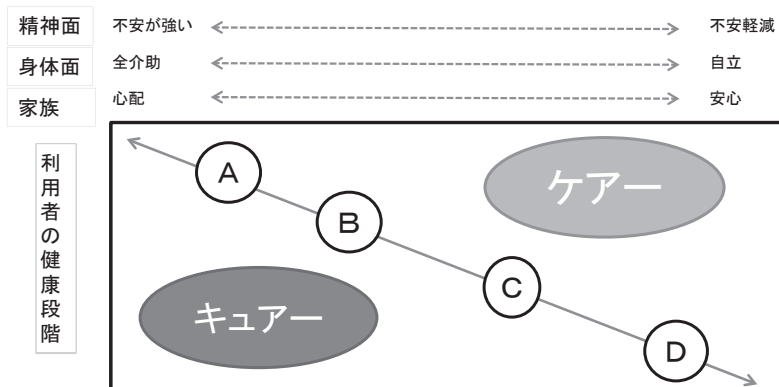


図2 介護過程アセスメントシートマニュアルのイメージ

- ・印（㉠～㉤）の各時点ごとにアセスメント項目をまとめる。例えば㉠では家族へのフォローが大きい。身体面では動かせない、意識がない状態の時にどのような介護をおこなったか、どのようなフォローが必要であったかをまとめる。またどのような視点で患者を観るのかをまとめる。

まずそのためには患者の健康状態に応じた介護福祉士の役割を明確化する必要があると考え、健康段階別の患者の状態を把握し、「介護目標」の設定のため、現場のインタビューの実施に至った。

## 研究方法

### 1. 研究目的

本研究は医療現場の介護過程アセスメントシートマニュアル作成を最終目的に、医療現場で就労する介護福祉士の意識及び現状調査を行い、各健康段階の介護福祉士の役割の明確化を図り健康別に応じた目標を設定する。今回は慢性期病棟と回復期病棟の「介護目標」を検討する。

### 2. 研究方法

共通のインタビュー内容にて半構造化インタビューを行う

インタビュー期間：2016年5月

対象：福岡県内

回復期病棟A病院

介護福祉士3名（A氏・B氏・C氏）

慢性期病棟B病院

介護福祉士3名（D氏・E氏・F氏）

選出基準：勤続年数3年～6年の介護福祉士（新人・管理職以外）

### 3. インタビューに対する倫理的配慮

まず施行者の選定には、日ごろより面識を持つ者とし、気楽に話せるような雰囲気をつくった。開始する前に、目的・意義を説明し、理解を得た。そして研究への協力への自由意志、途中でも不愉快であれば中止しても構わないことを伝えた。また場所は病棟としたため、人の出入りがいない場所を選定し情報漏洩防止への配慮を行った。このインタビューは聖隷クリストファー大学 研究倫理委員会の承認を得て実施した。

## 結果

### 1. インタビューの結果

#### 《回復期病棟》

##### 回復期病棟 事例1

氏名：A氏 男性

年齢：20代

経歴：5～6年

学歴・資格取得方法：4年制大学・社会福祉学科卒業・国家試験

勤務：回復期病棟5～6年

質問1：病院内に介護福祉士は必要だと思いますか。

「なかなか難しいですね。介護福祉士は必要だと思います。それは、ファーストステップ研修などは介護福祉士しか行けない研修なので。無資格だと行ける研修が限られてくるので、同じ成長は出来ない。

ただ、当院の〇〇さんは無資格だけど、必要な人だとは思えるし、必ずしも資格だけでは言えない部分もある」

質問2：どのような場面で（質問1）そのように感じましたか。

「無資格でも良いのは（病院で働く職種で）介護士だけで他の資格は必須となっているので、同じ国家資格として対等というためには有資格者であることが必要になってくる。また、国家資格をもっている自覚や責任感を

感じる。しかし、無資格で働いてはいないので分からないが、無資格でもプライドや責任は持っていると思う。」

質問3：介護福祉士としてどんなふうに頑張りましたか。

「ケアの提供では資格としてのことは言えないが、アセスメントシートなどを作ったりなどアセスメントになると介護士ではなく介護福祉士だからこそだと思います。」

質問4：頑張ったことを具体的に教えて下さい。

「業務改善、質を改善させたいと思ったことも、資格あつてのことで、研究的に取り組もうと思ったのであって、無資格だったら、先に資格取ろうと思うと思う。」

質問5：頑張ったことは役に立ちましたか。

「役に立った。病院にとってはわからないけど、個人にとっては役に立った。妥協せずに取り組んだので（研究に）。今から病院で役に立っていければ良いかなと思う（作ったものが）。」

質問6：あなたは、病院で働く介護福祉士の役割をどのようなことだと思いますか。

「（対象者の）生活を一番知っているのは介護士ではあるが、介護福祉士だけではない気がする。退院指導や介護指導などが介護福祉士の専門性ではあると思うが、介護福祉士が全員できるかというとそうでもない気がする。」

回復期病棟 事例2

氏名：B氏 男性

年齢：20代



経歴：老人保健施設5年 当院2～3年

学歴・資格取得方法：介護福祉養成校

質問1：病院内に介護福祉士は必要だと思いますか。

「あまりそうは思わない。介護福祉士である必要はないと思います。ヘルパーであったりでも出来る仕事だとは思いますが。」

質問2：どのような場面で（質問1）そのように感じましたか。

「やる事、業務内容にゴミ捨てや補助業務などがある。現在、医療職と介護職の違いを出しきれてない。ただ、同じ介護福祉士でも違い、差があると感じる。専門性を上手く出せていない人も多くいるし、実務経験で国家資格を取ったとたんになんか変わったようには感じない。」

質問3：介護福祉士としてどんなふうに頑張りましたか。

「意見を言うぐらい。」

質問4：頑張ったことを具体的に教えて下さい。

「退院して在宅へ帰る人がほとんどなので、生活の視点での意見を（カンファレンスや日常的に）言うように心掛けています。」

ただ、自分自身もヘルパーの経験があるわけではないので強くも言えない、ジレンマを感じる部分ではあるけど、言わないと患者に不利益になるようなことは必ず意見するようにしている。」

質問5：頑張ったことは役に立ちましたか。

「分からない」

質問6：あなたは、病院で働く介護福祉士の役割をどのようなことだと思いますか。

「専門性を持つこと。その人らしく。どう家に帰るかと考えること。意見に流されない。患者の意見を代弁する。」

### 回復期病棟 事例3

氏名：C氏 年齢：30代 男性

経歴：老人保健施設 当院3年 計12年

学歴・資格取得方法：四年制大学社会福祉学科卒業 国家試験

質問1：病院内に介護福祉士は必要だと思いますか。

「必要でしょうね。介護福祉士がいなかったらいろいろな問題が出てくる。食事、入浴、トイレ…他の職種への負担がものすごくなると思います。専門的な知識や技術が（有資格・無資格とでは）違う。そう考えると全然違うので必要でしょう。」

質問2：どのような場面で（質問1）そのように感じましたか。

「コミュニケーションから食事、トイレ、オムツ交換、…全てにおいて知識のあるなしで違う。」

質問3：介護福祉士としてどんなふうに頑張りましたか。

「入院中、生活をいかに安楽に穏やかに過ごしてもらうか。楽しく入院してもらいたいと思っています。リハビリや治療に専念できるように環境を整えるのも介護福祉士の役割だともっています。」

質問4：頑張ったことを具体的に教えて下さい。

「どんな時でも、専門的な知識や技術は前提として、更に笑顔で挨拶して、自分がいることで患者から“落ち着く、安心する”と思ってもらえるような存在になれるように毎日業務をしている。」

質問5：頑張ったことは役に立ちましたか。

「立っている。患者さんの声は直接聞けるから、この接し方でよかった。合ってたと感じることができる。」

質問6：あなたは、病院で働く介護福祉士の役割をどのようなことだと思いますか。

「知識・技術プラスリハビリへの意欲を引出したり、質問4で言ったようなことと同じですね。ただ、介護福祉士は一人一人若干考え方や接し方に違いがあるので、それも良さの一つだと思っています。」

#### 《慢性期病棟》

慢性期病棟 事例1

氏名：D氏 女性

年齢：40代

経歴：特別養護老人施設5年 当院4～5年

質問1：病院内に介護福祉士は必要だと思いますか

「思います。」

質問2：どのような場面で（質問1）そのように感じましたか。

「医療面はできないから、生活面を支えるため。看護師が聞けないこととか、できないことを介護福祉士が聞いて行う。たとえば業務で、患者さんが満足してないこと聞いて、プラスの部分とか。微調整。」

質問3：介護福祉士としてどんなふうに頑張りましたか。

「チームワーク。積極的に自分から声掛けして動くように。チームケアを頑張った。」

質問4：頑張ったことを具体的に教えてください。

「病棟内だったら、看護師・介護福祉士・リハビリとか。Drはあんまり直接は…、栄養とか社会福祉士とか。自分から発信して付き合ったほうがいいから。そうしている先輩がいたから。チームケアを意識している。看護師とは特に。だんだん言えなくなった患者さんとかの、これまでのこだわりとかは、自分たちしかわからんけん。看護師の指示のもと動く。呼吸器さんとか。」

質問5：頑張ったことは、役に立ちましたか。

「立っていると思います。」

質問6：あなたは、病院で働く介護福祉士の役割はどのようなことだと思いますか。

「チームケアの一員であること。Drや看護師の指示のもとでできる範囲のことはしたい。介護士がやってはいけないことがあるから、後輩に見られているので、線引きをしっかりとかんといかんと思います。」

質問－②記録は書いていますか。

「記録は、特変とかあれば書くかな。月に一回書かないかんから、月に一回は書いてます。監査のために…」

記録は、残さないと伝わらないから、残せるように、…書くようにしている。」

慢性期病棟 事例2

氏名：E氏 男性

年齢：40代

経歴：老人保健施設 当院6年

質問1：病院内に介護福祉士は必要だと思いますか。

「慢性期病棟には必要と思う。長期で年間行事などもあるし。ニーズを捉えていくためには一般病棟には必要ないかも。助手さんで大丈夫なのかな。」ADLが自立している人が多いから。

質問2：どのような場面で（質問1）そのように感じましたか。

「呼吸器の患者さんがいると、医療依存度が高い。でも余暇活動は、福祉の国家資格を持った介護福祉士がいることによってニーズを捉えていける。」

質問3：介護福祉士としてどんなふうに頑張りましたか。

「老健は福祉がメインになっている。ここは看護師が多いし、呼吸器が多いから、看護師の指示で動いていく。看護師の手助けしながら、患者のニーズをふまえて、協働していこうと頑張っている。」「患者さんに信頼してもらおうこと。介護福祉士として。介護職が存在する意義をわかってもらう。」

質問4：頑張ったことを具体的に教えてください。

「新しい新人さんになるべく早く慣れてもらうこと。離職しないように。今はだいぶ落ち着いている。業務の確立をしないといけない。

他の病棟にも、介護福祉士は入ったけどその時も手探り状態だった。先輩がいることで、将来像が描きやすくなる。今後につなげたい。」「まず信頼関係をつくる。自分からコミュニケーションをとる。細かいことでもニーズを探っていくこと。ニーズとは…「□時に△△してほしい」いつもしている事とか、言われなくても先回りする。そうしていくことで、安心感とか信頼関係につながって、その先に、これからどうしていきたいのか、ひきだしていける。」

質問：新人に対して伝えているか。

「持って生まれた感性かな。新人には、患者さんのことがわかるまでは、言葉づかいから指導し時間があればコミュニケーションをして、本当のところのニーズ（真のニーズ）を探っていけるように指導している。けど、はっきりしたものもないし、口で伝えている。」

質問5：頑張ったことは、役に立ちましたか。

「自分にとっては役に立っている。病棟が変わって、患者さんが変わっても間違っていないんだなあ、やっぱり、信頼関係と存在意義です。」

質問6：あなたは、病院で働く介護福祉士の役割はどのようなことだと思いますか。

「より医療的なところも知っておかなければいけない。日常的に疾患によってリスクがある。施設で急変したときに、救急車とかで病院に送るのとは違う。感染から自分を守るためにも。ほかの患者さんも」

Eさんの主張

「他の病棟にも介護がほしいという話だけど

そこにはどんな患者さんがいて、どんなニーズがあって、そこに介護が必要なのか。

存在意義を確立していかないとこのままじゃ。

これまで、若い患者さんが多い病棟にいた。余暇活動は誘ったりする。しかし、ここは、大人なので意欲、ニーズが…。(ひきだすのが難しい)前はやってみてたけど、職員の都合で、必要最小限になっている気がする。」

「他職種にみとめてもらうための働き…」を強調。

「《○○さんの△△知ってますか》」と自分たちも言っていると思う。趣味、趣向とか、細かい部分の情報」

慢性期病棟 事例3

氏名：F氏 男性

年齢：30代

経歴：老人保健施設

グループホーム5年 当院6年

質問1：病院内に介護福祉士は必要だと思いますか。

「ここには必要だと思います。（慢性期病棟）ほかの病院には必要と  
思わないです」

質問2：どのような場面で（質問1）そのように感じましたか。

「看護師だけでは関われないところをサポートする。患者を…ほかの病院  
は助手みたいな感じだから」

質問3：介護福祉士としてどんなふうに頑張りましたか。

「患者さんは、病院の生活はいいものではないと思う。だから、話し相手  
とか、楽しめることを一緒にする感じ。行事とか、食事会とかのサポート」

質問4：頑張ったことを具体的に教えてください。

「ゆっくり話せる時間はないけど、ケアの間とか、話聞くとか、グチ聞くと  
か、…めんどくさがらずに聞くこと。最初は、患者さんと仲良くなるこ  
とを頑張った」

質問5：頑張ったことは、役に立ちましたか。

「仕事はすごくやりやすくなりました。患者さんと人間関係悪いと…やめ  
ていったり…。新人にも、まず気を付けること、伝えること教える（コミュ  
ニケーション）ようにしている」

質問6：あなたは、病院で働く介護福祉士の役割はどのようなことだと思

いますか。

「患者さんの身の回りのお世話をすること。プラス、関係性として、看護師と患者さんは親密になりにくいから、あいだを取り持つような。

患者さんが直接看護師に言えないこととかを言う。」「看護師よりやっぱり距離感が近い。呼吸器さんは関わると思うけど、あまり来ない（患者サイドへ）」

質問：インタビューの中で、「病院には行きたくなかった」って、言われていたが、どうして病院に勤めることになったのか？また病院で働いてみてイメージどうですか。

「金銭面。お金のため。できるだけいいところを探して…」「イメージしてた病院と違う。」「イメージしていたのは看護師のお手伝い。でもここは違った。」

以上が医療現場で働く介護福祉士の生の声である。

## 2. インタビュー内容から回復期病棟と慢性期病棟の特徴

表1に主な声をまとめた。そのキーワードを表2に「役割」「関係性」「多

表1 インタビュー結果の要約

質 問	回 復 期		慢 性 期	
	必要である	必要ない	必要である	必要ない
	2人	1人	3人	0人
①質問 病院の介護福祉士の必要性、それを感じた場面	生涯研修制度などからステップアップできる研修などに参加し同じ成長ができる。無資格者との知識・技術の差があることを述べている。	「医療職と介護職の違いを出しきれていない。同じ介護福祉士でも違いや差がある。	看護師だけではかかわれないところをサポートする。看護師が聞けないこと足していない事をきいて微調整している。長期入院が多いため余暇活動には介護福祉士がいることでニーズが捉えられる。	
質問② 介護福祉士として頑張ったこと、役に立ったこと	回復期病棟ではアセスメントシートを作成する。退院して在宅へ帰る人には生活の視点での意見をする。リハビリや治療に専念できるように環境を整える。		慢性期病棟では患者の話、愚痴を面倒くさがらずに聞くようにしている。チームワークを心掛けている。看護師の指示で動き、手助けし協働していく。	
質問③ 病院での介護福祉士の役割とは…	回復期病棟では退院指導や介護指導、リハビリの意欲を引き出す。		慢性期病棟では患者の身の回りのお世話、看護師との間を取り持つ、チームワークの一員であり医師と看護師の指示のもとに動きやれることはやる。また介護記録については「書いてない」ことが多かった。	



様性」「課題」と項目ごとにまとめ、回復期病棟と慢性期病棟を比較し特徴を導いた。

表 2

項 目	回復期病棟	慢性期病棟
医療現場での役割	業務改善・質を改善・アセスメント・退院指導・介護指導・生活の視点で意見を言う・リハビリや治療に専念できるような環境整備・リハビリへの意欲を引き出す・患者に不利益になるようなことは意見する・どう家に帰るか考える・意見を代弁する	ニーズをとらえていく・生活面を支える・信頼関係をつくる・コミュニケーションをとる・ニーズを探っていく・患者をサポート・話し相手・余暇活動の充実・身の回りのお世話・その人らしく・看護師と患者の間を取り持つ・患者が直接、看護師に言えないことを伝える
患者との関係性	専門性を保つ・その人らしさ・どう家に帰るかを一緒に考える・意見に流されない・楽しく入院してもらうため	安心感・信頼関係・これからどうしていききたいのか、患者の気持ちを引き出す・話しを聞く・愚痴を聞く・患者のこだわりなど、自分たちしかなかった・看護師が聴けないことを聴く・患者に信頼してもらうこと・患者と仲良くなる・患者の声が直接聞ける・チームケアの一員であること・看護師と患者は親密になりにくいため間を取り持つ・距離感が近い
多様性	同じ介護福祉士でも違い、差がある・介護福祉士は個々で考え方や接し方に違いがあるが、それも良さの一つ	もって生まれた感性・はっきりしたものもない（新人の介護福祉士へ）口で伝えている・結局自分次第
課題	医療職と介護職の違いをだしきれてない・介護福祉士が全員できるか、というとうそもない	業務の確立をしないといけない・医療的なところを知っておく・リスクがある・他職種に認めてもらうためのはたらき・どんな患者がいてどんなニーズがあるかを知る、そこに介護が必要なのか・存在意義を確立していないと・・・

## 考察

質問内容：①病院での介護福祉士の必要性、それを感じた場面

回復期病棟の1人が必要性はない、2人は必要であると答えた。必要性がないと答えた人の根拠としては「医療職と介護職の違いを出しきれていない。同じ介護福祉士でも違いや差がある」と答えていた。必要であると答えた根拠は、生涯研修制度などからステップアップできる研修などに参加し同じ成長ができる。無資格者との知識・技術の差があることを述べている。慢性期病棟では3人とも必要であると答え、根拠としては看護師だけではかかわれないところをサポートする。看護師が聞けないことつまり

満足していない事をきいて微調整している。長期入院が多いため余暇活動には介護福祉士がいることでニーズが捉えられる。

ここでは回復期病棟は無資格と有資格との違いを意識し、慢性期病棟では、看護師と介護福祉士との違いを意識して比較する。

質問内容：②介護福祉士として頑張ったこと、役に立ったこと

回復期病棟ではアセスメントシートを作成する。退院して在宅へ帰る人には生活の視点での意見をする。リハビリや治療に専念できるように環境を整える。慢性期病棟では患者の話、愚痴を面倒くさがらずに聞くようにしている。チームワークを心掛けている。看護師の指示で動き、手助けし協働していく。回復期では介護福祉独自のアセスメントシートの作成と積極的に取り組んでいる。慢性期病棟では自分等はチームの一員としてどうあるべきかを考えている。

質問内容：③病院での介護福祉士の役割

回復期病棟では退院指導や介護指導、リハビリの意欲を引き出す。慢性期病棟では患者の身の回りのお世話、看護師との間を取り持つ、チームワークの一員であり医師と看護師の指示のもとに動きやれることはやる等、慢性期病棟は回復期病棟と比較し、独自の役割を見出していない。

また介護記録については「書いてない」ことが多かった。

## 結論

回復期病棟と慢性期病棟では必要性を感じた場面や頑張っている事などが明らかに違った。回復期病棟では知識・技術・ステップアップ研修で無資格との差を感じている。慢性期病棟では看護師との違いに介護福祉士の必要性を感じていた。患者に寄り添い、看護師との間を取り持ち、その中でもチームワークをよくすることで自分らの居場所をつくっている。また仕事内容も回復期では在宅への復帰を考慮した介護が行われており、慢性

期病棟では長引く入院生活をいかに有意義に過ごされるかに思いを寄せていた。著者は健康段階別介護の目的を次のように示唆した。

#### 回復期

- ・在宅への復帰を考慮した介護

#### 慢性期

- ・長引く入院生活をいかに有意義に過ごされているかに思いを寄せる介護

しかし、今回はわずか6人であり確信とはいいがたく、今後広範囲にアンケートを取ることで健康段階別の介護目標を明確にする。

#### おわりに

6人それぞれが、患者が置かれた状況で一番必要とされている事を独自で考え、介護福祉士の役割として誇りを持って働いている。また反面、雑務が多く有資格者でなくてもいいのではないかとジレンマも感じられた。病院に特化した教本や文献が少ない中、暗中模索、思考錯誤しながら自らの存在意義を感じ、役割を果たしている。しかし、病院の介護では「記録」が少ない現実は社会的には認められないことを裏付けているのではないだろうか。

病院介護の存在意義を不動なものとして社会に認められるのは共通した教育にあると考えられる。また今回の調査より患者の健康段階に応じた介護実践が行われていたことから段階に応じた介護マニュアル作成の意義を改めて強く感じた。

#### 引用・参考文献

- 1) 黒澤貞夫 (2016)『介護は人間修行 一生かける価値ある仕事』日本医療企画
- 2) 薄井坦子 改訂版「科学的看護論」日本看護協会出版社

- 3) 馬場敏彰 (2012) 「医療現場における介護福祉士の役割について―他職種と連携を行ううえでの一考察―」『九州大谷研究紀要』 38 (18) : 172.
- 4) 厚生労働省 (2008) 「安心と希望の医療確保ビジョン」  
(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/06/dl/s0618-8a.pdf>,2016.6.1)
- 5) 厚生労働省 「病院報告の概況 病院における従事者」